学部共通

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	可
授業科目名	群馬県民の文化と生活			科目履修	否
科目番号	Ａ０１００１	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	１年次　前期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	五十嵐均	その他			
担当教員	桜岡正信、町田悟、髙橋洋一、熊倉浩靖				
授業の概要	本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で産まれ･継承されてきた文化の特徴を学習する。この過程を通し、地域の特徴がその地域の生活様式や文化にどのように影響するかを理解し、人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。				
学科目的 学科目標	本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で産まれ･継承されてきた文化の特徴と人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。 1.　埋蔵文化財の特徴を通して、群馬県の歴史と文化を講義する。 2.　群馬県の自然の特色とその風土に育まれてきた産業の特色について講義する。 3.　心の文学である俳句の世界を通して捉えた群馬県民の文化と生活について講義する。 4.　県名の由来や上毛かるたの内実等、知っていてほしい事について改めて講義する。				

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
	1	4/11《オリエンテーション》 ・本科目のねらいとは 《特別講義》 ・60 分でわかる「現在の群馬」	講義	・毎回、学習課題を提示。	五十嵐 野口事務局長
	2	4/18《旧石器時代人の行動》 ・旧石器時代研究の端緒となった岩宿遺跡の発見以来、多くの遺跡発掘を通してどのようなことが明らかになってきたのかを考える。			桜岡
	3	5/2《土器と土偶に秘められた縄文人のこころ》 ・ダイナミックな文様で飾られた縄文土器や不思議な造形の土偶から、縄文人の心について考える。			
	4	5/9《古墳築造と埴輪の意味》 ・東国最大・最多の古墳が築造された群馬県の歴史的背景と埴輪樹立の意味を考える。			
	5	5/16《関東の華『前橋城』》 ・現在の県庁は、かつて『関東の華』と呼ばれた前橋城の跡にある。この群馬を代表する城郭の歴史を発掘調査から振り返る。			
	6	5/23《群馬県の自然環境と生活》 ・群馬県の生活・産業･文化の基になっている自然環境について､高地から低地まで変化に富む地形と、冬季の豪雪地帯と乾燥地帯、夏季の高冷地と高温地など多様性に富む気候について概観する。			町田
	7	5/30《群馬県の農業の変遷》 ・近世から近代・現代に至る農業生産の変遷を養蚕業を中心に考察する。また、養蚕技術の改良に努めた人物について考える。			
	8	6/6《群馬県の商工業の発展》 ・近世から現代に至る工業生産の発展を製糸業、絹織物業を中心に考察する。あわせて製糸業が日本の近代化に果たした役割について考える。			
	9	6/13《経済社会構造の変化と群馬県の産業の現況》			

授業の内容と方法		・養蚕県から野菜･畜産県に変化した農業、繊維工業から機械工業中心に変化した工業について、日本経済の停滞の中で抱えている問題を含めて考察する。また世界遺産の候補となっている「富岡製糸場と絹産業遺産」について考える。			
	10	6/20《日々の生活の中で俳句の果たす役割》 ・生活の中から詠まれた作品を紹介し、その背景を考察する。			高橋
	11	6/27《郷土の俳人とその作品》 ・群馬県の生んだ著名な俳人の作品紹介と鑑賞			
	12	7/4《俳句の実作と課題》 ・実作を通して俳句文学の本質を知る。			
	13	7/11《県名の由来と県の成り立ち》 ・群馬県の形は古代上毛野国以来の形とほぼ同じだが、この形になるには経緯があった。県名の由来を含めて県の形について理解を深める。			熊倉
	14	7/18《目から鱗の群馬県理解１》 ・群馬県発行の『「上毛かるた」で見つける群馬のすがた』をテキストに群馬県の内実についての理解を深める。目からの鱗のことが少なくない。			
	15	7/25《目から鱗の群馬県理解２》 ・前回に引き継ぎ、群馬県の内実についての理解を深めるが、できるだけ学生諸君の質問に答える形で進めたいと考えている。			
評価方法	レポート・その他による総合評価				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	指定しない				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	否
授業科目名	芸術Ｉ（音響芸術）			科目履修	否
科目番号	Ａ０１００２	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	石原理恵	その他			
担当教員	石原理恵				
授業の概要	芸術とは、人間の精神的･身体的活動を色･形･音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、すぐれた音響芸術の鑑賞を通して音響芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また、芸術を通して自己の精神的･身体的活動を表現する価値を理解する。				
学科目的 学科目標	目的：クラシック音楽や世界の様々な音楽を鑑賞し、それらについての基礎的な知識を身につけることで、心の豊かさとゆとりの実感できる生活が送れることを目指す。また、演習を通して、表現やコミュニケーションについても体験的に学習する。 目標：1.鑑賞を通して、日常的に楽しめる音楽の選択肢を増やす。 2.曲の背景や作曲家について学ぶことで、音楽作品についての理解を深める。 3.演習を通して、音楽表現やコミュニケーションについて体験的に学習する。 4.日常生活に音楽を活かすことで、心豊かな生活を送る方法を習得する。 5.医療者としての基礎教養を深める				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	私の音楽歴：「音楽と私のヒストリー」を振り返り、グループワークをする	講義・演習	・毎回、学習課題を提示。 ・学習予定、又は学習した作曲家の作品を聴いてみること。 等	石原
2	中世・ルネッサンス： 世俗音楽や宗教音楽の中から鑑賞し、学習する			
3	バロック： 主にヴィヴァルディ、ヘンデルの作品を鑑賞し、学習する			
4	バロック： バッハの作品を鑑賞し、学習する			
5	古典派： 主にモーツァルトの作品を鑑賞し、学習する			
6	死と音楽：主にモーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムを鑑賞し、学習する			
7	ロマン派： ピアノ曲を中心に鑑賞し、学習する			
8	ロマン派：声楽曲 歌曲、オペラの有名な作品の中から鑑賞し、学習する			
9	世界の音楽： アフリカ、南米、等の音楽の中から鑑賞し、学習する			
10	世界の音楽： アジアの音楽の中から鑑賞し、学習する			
11	演習①： クラス全体又は小グループでベルの演奏、又は合唱をする			
12	演習② 〃			
13	演習③ 〃			
14	演習④ 〃			
15	音楽療法：音楽療法とは何か、どのように行われているのかを知り、ストレスマネージメントとしての活用法を学習する			

評価方法	期末試験（60%）、演習（30%）、出席状況（10%） ＊15 回の講義の後に実施する試験日時は別途指定する。
教科書	「歌の宝石箱」ドレミ出版
参考書 参考文献等	講義の中で随時紹介する。
備考	１クラスの受講者は、20 人までとする。

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術Ⅱ（造形芸術）			科目履修	可
科目番号	Ａ０１００３	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	寺澤徹	その他			
担当教員	寺澤徹				
授業の概要	芸術とは、人間の精神的･身体的活動を色･形･音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、造形芸術の鑑賞を通して造形芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また造形芸術の作成プロセスを体験し、自己の精神的活動を豊かに表現する価値を理解する。				
学科目的 学科目標	・イメージを知覚して作り出す仕方（アートリテラシー）を実技演習の形式で学びます。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1～5	［材料との出会い］いろいろな素材・材料を使った造形表現を行い、多様な表現を経験します。 身近な材料を準備して、それらを使って新しい表現を模索する。例えばありふれた、新聞紙、紐、テープ、針金、消しゴム、木片、石、自然物・・・	講義と演習	授業中、適宜指示する	寺澤
6～9	［多くを感じとること］全ての感覚を駆使して感じ、造形的表現を育む。 描く、消す、擦る、貼る、破る、塗る、削る、割る、切る、組む、置く・・・様々な行為から 自分なりの新たな表現を発見します。			
10～12	［自然から学ぶ］自然物の形、色、関係性、新しい感覚経験 豊かな驚きと問いを生み出す試み。			
13～15	［造形的思考］考えたことをを整理して色や形に置き換えます。 初めて出会うような新鮮さで、物事の様子を伝える。			

評価方法	知っていたはずのことをあらためて感じ、驚き、興味をもちながら創作活動ができているか 感受性豊かに創造性に富んでいるか
教科書	指定しない
参考書 参考文献等	使用しない
備考	定員 30 名 各自が表現素材や材料を用意する。詳細はリストにして配布します。

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術Ⅲ（舞台芸術）			科目履修	可
科目番号	Ａ０１００４	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	２年次　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	中村ひろみ	その他			
担当教員	中村ひろみ				
授業の概要	芸術とは、人間の精神的･身体的活動を色･形･音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、舞台芸術の基礎と実際を体験し、身体を通して自己を表現する方法を学習する。				
学科目的 学科目標	（学科目的）演劇を上演し、観客と感動を共有する→自己を成長させる （学科目標） ・ストレッチ、脱力、腹式呼吸、発声を身につけることで身体の可動範囲の広さを体感する ・脚本の読み込みと演技を通じ、他者との関係性の中で「人間」を理解する ・毎回の講義後、レポートを手書きし、「ふりかえり」「気づき」の時間を確保することで、体感・理解したことを定着させる ・体が柔らかくなる、大きな声が出るようになる、人の前でせりふが言える、それまでできなかったことができるようになることで、自分の可能性を認知する				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1 2	自己紹介、身体訓練、身体遊び中心	講義と演習	講義後、後述のレポートを作成（毎回、担当講師からレポートの評価・感想を返す） レポート提出約五回（自己紹介、なぜ舞台芸術を選択したか、舞台芸術でなにを身につけたいか、講義を通して気づく「できること」「できないこと」、発表会でなにを伝えたいか）	中村
3 4	身体訓練、発声法、脚本本読み、配役			
5 6	基礎訓練と立ち稽古半々　この時間までに自己解放・リラックスができることを目標とする			
7 8	基礎訓練から立ち稽古中心にシフトしていく。脚本の理解を深める			
9 10	立ち稽古主体　自分だけでなく、せりふのやりとりに重点をおく			
11 12	立ち稽古主体　この時間までにせりふを覚える			
13 14	小返し・通し稽古主体　観客に伝えたいことを深める			
15	通し稽古、ゲネプロ　ほぼ本番通りに演じる			

評価方法	期末試験＝演劇発表会 80%、レポート 10%、出席状況 10% 15 回の講義の後、公開講義・発表会を開催する
教科書	特になし
参考書 参考文献等	特になし
備考	

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	可
授業科目名	異文化の理解			科目履修	可
科目番号	Ａ０１００５	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	結城恵	その他			
担当教員	結城恵				
授業の概要	世界の多様な文化や社会を比較分析し、文化の相違が人間の生活に及ぼす影響を学習する。また、現在人類が直面している諸問題をグローバルな視野で捉えるための方法・態度を学習する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	学科目的：多文化地域の社会背景を理解し、共生社会を築くために必要な視点を体得し、地域課題を解決する専門職としての資質を高める。 学科目標： １.多文化社会が生まれた社会的背景を理解する。 ２.多文化社会における諸課題とその現状を理解する。 ３.「異」文化のとらえ方が多様であることを理解し、多文化時代に求められる視点を考察する。 ４.多文化時代の求められる「異」文化のとらえ方を、現実社会の現象にあてはめ、課題を抽出することができる。 ５.抽出した課題を解決する方法を検討し、専門職として求められる資質を考察することができる。				

授業の内容と方法

本講義ではまず、群馬県でも顕著に表れているこの現象の社会的背景と多文化する社会がもつ構造的問題を理解する。次に、われわれが自明視しているやりとりや社会の仕組みを「異人の目」でとらえなおすことにより、多文化社会にもとめられるものの見方・考え方を学習する。最後に、多文化地域で保健・医療関係者、あるいは住民として貢献できる人材に必要な資質を体験的に学習する。

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	「異なる」そして「異文化」とは？	講義･ディスカッション	事後学習課題の遂行・提出	結城
2	「異なる」「異文化」はどう生まれるのか？			
3	多文化社会の背景(1) 基礎知識の確認	講義・作業・ディスカッション		
4	多文化社会の背景(2) データを読む			
5	多文化社会の背景(3) データから推測する			
6	多文化社会の背景(1)～(3) の理解の確認	中間課題(1)とふりかえり	課題図書『幼稚園で子どもはどう育つか』	
7	日本における多文化社会び成立基盤を考察する(1)－日本社会の「あたりまえ」を解く－	講義･ディスカッション		
8	日本における多文化社会び成立基盤を考察する(2)－「異なる」はどう生まれるのか－			
9	日本における多文化社会び成立基盤を考察する(3)－「異なる」こと・ものは扱われるのか－			
10	日本における多文化社会び成立基盤を考察する(4)－社会の「あたりまえ」が崩れるとき－			
11	日本における多文化社会び成立基盤を考察する(1)～(4)の理解の確認	中間課題(2)とふりかえり	新聞記事検索	
12	地域の共生課題へのアプローチ(1)	グループ課題の遂行・発表	資料検索	
13	地域の共生課題へのアプローチ(2)		データ収集	
14	地域の共生課題へのアプローチ(3)	グループ発表１	グループ発表１の評価レポート	
15	地域の共生課題へのアプローチ(4)	グループ発表２	グループ発表２の評価レポート	

評価方法	試験、レポート、授業への参加態度などによって評価する。
教科書	結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか』　有信堂高文社
参考書 参考文献等	特になし
備考	【重要】講義は、月曜４・５限２コマの原則隔週を予定。初回の講義（４月 16 日）時に、開講日を提示する。

科目区分	教養教育科目　　文化と生活			聴講	可
授業科目名	歴史学の変化と発展			科目履修	可
科目番号	Ａ０１００６	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	小林龍彦	その他			
担当教員	小林龍彦				
授業の概要	歴史とは、人類社会の過去における変遷・攻防のありさまである。また、歴史＝history と言う表現にあらわれるように、従来の歴史に関する書物は、男性しかもそのときの権力者の意図を反映して編纂されたという特徴を持つ。この授業においては、歴史学の方法とその展開への理解を通して歴史とは何か、歴史学とはどのような学問なのかを考えながら、現在の歴史学が抱える諸課題を学習する。また、真理に近づく方法としての研究のあり方について関心を高める。				
学科目的 学科目標	目的：広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力などを修得させる。 目標：歴史は人間の創造活動の所産であり、過去の事実が現在を生じさせている。その過去を読み解く手段である史料の見方や分析法の学習から真実の姿を見る眼を養うことにする。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	歴史学を学ぶにあたって	講義	必要に応じて指示する	小林龍彦
2	歴史とはなにか			
3	歴史と歴史学の意味			
4	用語「歴史」の誕生から			
5	歴史叙述のはじまり―『歴史』を読む			
6	歴史叙述のはじまり―『史記』を読む			
7	歴史を見る眼とは			
8	歴史事実の取捨選択問題			
9	学問としての歴史学とは			
10	史料採訪・発見・利用問題			
11	史料を見ること・読むこと			
12	史料批判			
13	日本科学史研究の事例から―禁書の輸入			
14	日本科学史研究の事例から―西洋天文学の受容			
15	講義を振り返って			

評価方法	試験、レポート、授業への参加態度などによって評価する。
教科書	特になし。ただし、必要に応じて資料等を配布する。
参考書 参考文献等	福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店、2006 年）　史学会編『歴史学の最前線』（東京大学出版会、2004 年）　岡田英弘『歴史とはなにか』（文芸春秋、平成 17 年）
備考	特になし

学部合同

科目区分	教養教育科目　　個人と社会			聴講	可
授業科目名	個人と集団			科目履修	可
科目番号	A０２００１	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次)　　前期セメスター	単位	２単位　30時間		
科目責任者	坂本　祐子	その他			
担当教員	坂本　祐子				

授業の概要	集団とは、相互行為を行っている複数の人々の社会的な結びつきである。また、個人は集団に属することによって、特定の共同目標を掲げ、単独では実現できない目標を実現し、欲求を充足できる。一方、集団には、目標達成を図ろうとするあまり、社会的分業関係から逸脱して社会関係を混乱させたり、個人を拘束し抑圧する側面がある。この授業においては、現代社会における個人と集団に関わる諸問題を検討し、この過程をとおして、集団及びその集団を構成する個々人がもつ多様な価値観の存在を理解する。
学科目的 学科目標	本講義では、授業の概要に掲げた「個人と集団」の関係における集団を「地域社会」または「家族」と具体化して考察する。 【目的】日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、東日本大震災の影響も含め、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。また、地域に生きる集団としての「家族」も扱いながら、講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。 【学科目標】 １．地域社会や家族に関する基本的な知識（地域社会・家族の概念、日本社会における歴史的な地域社会・家族の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 ２．地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学び、家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる。 ３．地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会および地域社会に生きる家族に対して各自が関心と意見を持つ。

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	地域社会の概要（１）地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	講義	毎日、新聞に目を通すことを期待する	坂本
2	地域社会の概要（２）地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。			
3	地域社会の概要（３）地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）①			
4	地域社会の概要（４）地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）②			
5	家族をとらえる（１）近代家族の基本概念 近代家族の誕生と特徴、日本における家族の近代化、民法における家族			
6	家族をとらえる（２）家族と世帯、世帯の動向、 家族周期、家族の発達と個人のライフコース			
7	家族の機能（１）近代家族が担う家事労働			
8	家族の機能（２）労働環境の変化と家族			
9	家族の機能（３）家族の機能と家族の変容			
10	家族と個人　ワーク・ライフ・バランス			
11	子育てと地域社会（１）都市化の進展と子育て環境の変化			
12	子育てと地域社会（２）地域で育児を支援する様々な取り組み			
13	地域コミュニティの担い手（１）ボランティアと住民組織の再評価、コミュニティ・マネジメント			
14	地域コミュニティの担い手（２）地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク①			
15	個人と集団―まとめ			

評価方法	定期試験（70%）に出席点・平常点（30%）を加味して評価する
教科書	教科書は使用しない（プリントによる）。
参考書 参考文献等	森岡清志編（2008）『地域の社会学』有斐閣アルマ 早坂裕子他編（2010）『社会学のつばさ―医療・看護・福祉を学ぶ人のために―』ミネルヴァ書房 広井良典著（2006）『持続可能な福祉社会』ちくま新書
備考	授業中の私語は厳禁です

学部共通

科目区分	教養教育科目　　個人と社会			聴講	可
授業科目名	人間と職業			科目履修	可
科目番号	Ａ０２００２	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	２年次　後期セメスター	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	石井幸夫	その他			
担当教員	石井幸夫				
授業の概要	人間の普遍的営みとしての職業の意義を明らかにし、専門職の特徴とその定義の変遷を学習する。また、人間と職業、職業を通した社会への貢献、職業決定のプロセスに関する理論を学習し、社会学的研究方法や社会学的観点からの現象への迫り方を理解する。				
学科目的 学科目標	（学科目的）女性にとっての職業（労働）の意味がどう変遷してきたかを明らかにし、これによって人間にとっての職業とは何か、そしてこの問題に社会学はどのようにアプローチするのかを理解する。 （学科目標）戦後高度経済成長期（5,60年代から70年代まで）における女性の社会的あり方から説き起こして、これが高度経済成長期以降（80年代から90年代前半まで）を経て、バブル期以降（90年代後半以降）の現代、どのように変化しているのかを、その時代の社会状況、および人々の（職業意識を含む）様々な意識のあり方を理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ	講義	テキストがないので予習は不要だが、その分復習をしっかりして欲しい。	石井
2	Ⅰ高度経済成長期(50-60年代);家族革命(1) 1.人口学的異常事態の発生 1)兄弟姉妹 5､6 人			
3	Ⅰ高度経済成長期(50-60年代);家族革命(2) 2)少子化			
4	Ⅰ高度経済成長期(50-60年代);家族革命(3) 2.経済学的異常事態の発生 1)人口と経済 2)高度経済成長			
5	Ⅰ高度経済成長期(50-60年代);家族革命(4) 3.戦後家族モデルの誕生 1)昭和ﾋﾄｹﾀ=ベビーブーム世代の家族 2)まとめ			
6	ﾐﾆﾃｽﾄ			
7	Ⅱ高度経済成長期以後;女性労働概念の変化(1) 0.労働とは何か? (70-80年代) 1.新たなライフコースの出現 1)産業構造の転換と専業主婦の職場復帰			
8	Ⅱ高度経済成長期以後;女性労働概念の変化(2) 1)産業構造の転換と専業主婦の職場復帰(続)			
9	Ⅱ高度経済成長期以後;女性労働概念の変化(3) 2.新たなライフコースの80年代的意味 1)ライフコース選択の決定因			
10	Ⅱ高度経済成長期以後;女性労働概念の変化(4) 2)ライフコース選択と家族規範意識との関係 3)まとめ			
11	Ⅱ高度経済成長期以後の女性労働概念の変化(5) (90 年代後半以降) 1.なぜ 90 年代後半か？			
12	Ⅱ高度経済成長期以後の女性労働概念の変化(6) 2.現代の労働市場 1)90年代後半、労働市場の構造変化 2)非正規雇用について			
13	Ⅱ高度経済成長期以後の女性労働概念の変化(7) 2)非正規雇用について(続)			
14	Ⅱ高度経済成長期以後の女性労働概念の変化(8) 3.まとめに代えて　1)労働の精神化			
15	Ⅱ高度経済成長期以後の女性労働概念の変化(9) 3.まとめに代えて 2)「男女共同参画社会基本法」 3)労働概念の未来			

評価方法	1；期末試験(70%)、2；ミニテスト(11 月中旬を予定[詳細未定])(30%)、3；授業態度(随時減点)などによる総合評価。
教科書	なし。
参考書 参考文献等	適宜指示。
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　個人と社会			聴講	可
授業科目名	法と正義			科目履修	可
科目番号	Ａ０２０００３	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次　後期セメスター	単位	２単位　３０時間		
科目責任者	斎藤周	その他			
担当教員	斎藤周				
授業の概要	人間社会における法律の起源と役割、正義とは何か、正義と法律とはどのような関連があるのかを学習し、憲法及びわが国の法律が国民に保障する基本的人権を理解する。				
学科目的 学科目標	［目的］憲法をはじめとする法は、私たち人間をしばるためにあるのではなく、〈ひとりひとりが自分らしく生きられる社会〉をつくるためにある。したがって、法（憲法）を学ぶこととは、条文の文言や解釈を暗記することではなく、法（憲法）を通して社会のあるべき姿を考え、何が正義に適うのかを考えることであって、この授業の目的もそこにある。 ［目標］この授業は、履修者が①権利主体・主権者として人権を活用し自分らしく生きるすべを学ぶこと、②法的な視点を踏まえて社会のあり方を考える力を獲得すること、をめざす。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	序論－憲法とは何か	講義	参考文献を読むことを推奨する。	斎藤
2	基本的人権①－人権とは何か			
3	基本的人権②－男女平等とジェンダーの視点			
4	基本的人権③－性別役割分業と家族・労働			
5	基本的人権④－労働と人権			
6	基本的人権⑤－刑罰と人権			
7	基本的人権⑥－被疑者･被告人の人権と冤罪			
8	基本的人権⑦－権利としての教育			
9	基本的人権⑧－表現の自由			
10	統治機構･国民主権①－民主主義，選挙，国会			
11	統治機構･国民主権②－議院内閣制，違憲審査制			
12	平和主義①－戦争における日本の加害行為			
13	平和主義②－日本への原爆投下			
14	平和主義③－憲法9条の考え方			
15	平和主義④－自衛隊，海外派兵			

評価方法	論述式の筆記試験（またはレポート）により評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。なお、授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考文献等	森英樹『新版 主権者はきみだ』岩波ジュニア新書 このほかに、授業の中で紹介する。
備考	授業内容と順番は変更することがある。

学部合同

科目区分	教養教育科目　　個人と社会			聴講	可
授業科目名	倫理と道徳			科目履修	可
科目番号	Ａ０２００４	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次（２年次）　前期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	森川　功	その他			
担当教員	森川　功				
授業の概要	倫理学とは、社会的存在としての人間間における共存の規範・原理を考え、追求する学問である。この授業においては、倫理の原理とは何か、倫理と道徳とはどのような違いがあるかを学習し、倫理的原理に関する思想の多様性を理解する。また、この過程を通して、人間社会における倫理的行動を規定する諸要素を理解する。				
学科目的 学科目標	①　倫理と道徳との差異を理解する。 ②　基本的な倫理原則について説明できる。 ③　倫理が時代により変化し得るものであること（したがって議論が重要であること）を理解する。 ④　特定の事案の倫理的妥当性を分析する場合には道徳や法（法律）も重要な役割を果たし得ることを理解する。 ⑤　特定の事案に関して、自分を当事者の立場に置くことなく、その事案が倫理的に正当化されるか否かについて論じることができる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	倫理と道徳との差異、数々の事件、倫理理論	講義	毎回、学習課題を提示	森川
2	基本倫理原則（１）			
3	基本倫理原則（２）			
4	基本倫理原則（３）			
5	基本倫理原則（４）			
6	インフォームド・コンセント			
7	具体的な事案の提示と解説（１）			
8	具体的な事案の提示と解説（２）			
9	具体的な事案の提示と解説（３）			
10	具体的な事案の提示と解説（４）			
11	具体的な事案の提示と解説（５）			
12	具体的な事案の提示と解説（６）			
13	具体的な事案の提示と解説（７）			
14	具体的な事案の提示と解説（８）			
15	具体的な事案の提示と解説（９）			

評価方法	レポート＋講義における質疑応答(100%)
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜指示をする。
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　個人と社会			聴講	可
授業科目名	社会と経済			科目履修	可
科目番号	Ａ０２００５	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	菅野英機	その他			
担当教員	菅野英機				
授業の概要	経済とは、人間の共同生活の基礎をなす財・サービスの生産・分配・消費の行為・過程並びにそれを通じて形成される人と人との社会関係の総体である。この授業においては、経済に関する学問である経済学の起源と発展過程を学ぶ。また、経済学的観点から人間と社会関係を研究する意義を理解する。				
学科目的 学科目標	（学科目的）幅広く経済社会を理解し、さらに医療と市場経済の関連を理解すること。 （学科目標）幅広い知識と見識を備えた医療テクノロジストとして活躍できる人材の育成。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習	担当
1	３つの社会システムと経済の歴史 強制システム・交換システム・統合システム	講義	小テスト リポートの提出	菅野
2	交換・市場・価格・所得			
3	貨幣の発生と役割			
4	産業革命と市民社会の成立・アダム・スミス 発達した市場経済の成立			
5	アダム・スミスと国富論・道徳情操論 分業と経済発展、利己心と社会の厚生			
6	市場の限界と経済・公共政策 失業・所得格差			
7	市場の限界と経済・公共政策 日照・公害			
8	市場の限界と経済・公共政策 売春・麻薬・高齢者問題			
9	市場の限界と経済・公共政策 インフレーション・資源配分・公共財			
10	医療需要と補助金 医療サービスの価格弾力性			
11	医療の特性・伝染病の外部性 特殊平等性・不完全情報・不完全競争			
12	医療保険 日本とアメリカ			
13	これからの経済社会の変化 雇用形態・市場			
14	これからの経済社会の変化 知識社会			
15	これからの経済社会の変化 テクノロジストが中心の社会			

評価方法	授業中に小テストを５回行い、１回を２０点満点で採点し、評価する。小テストが受けられなかった場合は、リポートを提出すること。リポートは１６点満点で採点し、合計する。
教科書	特になし
参考書 参考文献等	参考書と参考文献は多岐に渡るため授業中に必要に応じて示す。
備考	聴講生も小テストは学力向上のため受けて下さい。

科目区分	教養教育科目　　個人と社会			聴講	可
授業科目名	心の機能と構造			科目履修	可
科目番号	Ａ０２００６	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	加藤昌弘	その他			
担当教員	加藤昌弘				
授業の概要	人の心の働きに関する学問としての心理学は、精神または精神現象についての問いかけから始まった。19 世紀以降その研究方法には物理学・生理学などの成果を基礎とした実験的方法が取り入れられ、実証的科学として成立した。この授業においては、心理学の成立過程と発展過程を学ぶ。また、心理学の研究成果を概観し、心の働きを模索するための方法や学的体系の特徴について理解する。				
学科目的 学科目標	目　的：人間全体を直接の研究対象とし、心の諸相やその発達を概観するとともに、個人と集団との関係についても学びながら、人間を社会的存在として捉えられるようにする。 目　標：①心の持つ基本的な機能と構造を理解する。 ②人間関係の心理学的理解を深め、将来の医療臨床への活用を学ぶ。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	心理学の歴史と領域	講義	毎回の授業の冒頭に前回の学習内容の簡単なクイズを行うので、復習して備えること。	加藤
2	知覚の成立と諸現象			
3	記憶の働きと諸特性			
4	思考と問題解決			
5	知能と知能検査			
6	学習の理論			
7	学習に及ぼす諸条件			
8	感情の諸相と異常			
9	適応と適応機制			
10	性格形成と諸要因			
11	性格の理解と性格検査			
12	発達の心理			
13	集団の形成と特徴			
14	群集と集団行動			
15	まとめ			

評価方法	期末試験 60%、講義内に提出するミニテストやレポート 20%、出席状況 20% ※15 回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する。
教科書	辰野千寿･著　≪系統看護学講座 基礎分野≫「心理学（第5版）」 医学書院　1996 年
参考書 参考文献等	長田久雄編　「看護学生のための心理学」医学書院　2002 年 梅本・大山編著　「心理学への招待」サイエンス社　1992 年
備考	印刷教材を授業内に配布するが、後日配布しないので、必ずその時間内に受領すること。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅰ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００１	クラス番号	N1・N2		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年前期セメスター	単位	２単位　60時間		
科目責任者	鵜生川恵美子	その他	診療放射線学部とは別内容		
担当教員	鵜生川恵美子・正田久実子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
学科目的 学科目標	基礎的英語表現を言語使用の目的に合わせて総合的に学ぶ。 1. 英文読解: 健康全般に関する新聞記事を読み、的確に内容を把握し、比較的長い英文も読めるように基礎作りをする。英語を語順通りに理解、把握できるようにする。 2. 看護英会話：ビデオ教材を使用し、臨床で実際に看護師が使用する会話表現を学ぶと共に、基礎的な英語の医療専門用語を学ぶ。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	Introduction　・Self Introduction	演習	予習として本文を読み、分からない単語・語句などを調べておくこと。	鵜生川 正田
2	Unit 1 Hospital Admission Unit 1 健康格差の是正			
3	Unit 2 The Nurse’s Role Unit 3 インフルエンザ・パンデミック時のトリアージ			
4	Unit 3 Life in the Hospital Unit 5 災害時緊急医療			
5	Unit 4 Taking Vital Signs Unit 6 食中毒を警戒せよ！			
6	Unit 5 Taking Vital Signs (2) Review			
7	中間テスト(Written Test)			
8	Unit 6 Providing Meal Assistance Unit 8 毒か薬か			
9	Oral Presentation(口頭試験:臨床現場の skit 発表) Unit 11 患者学のススメ			
10	Unit 7 Rehabilitation (1) Unit 14 死、そして、腎臓移植と医療行為			
11	Unit 8 Rehabilitation (2) Unit 16 色盲が遺伝子治療で治癒			
12	Unit 9 Shampooing in Bed Unit 18 再生医療に希望			
13	Unit 10 Foot-bath Unit 20 アルツハイマー病の診断			
14	Unit 11 Taking a Blood Sample Unit 21 生前の意志の表明			
15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Quiz 20%　Oral Presentation 20%　Written Test 50%
教科書	1．*Health Talk: English for Hands-on Nursing* by Y. Watanabe, P.Uchida, J.Yamamoto (Pearson Education) 2. *GETTING TO KNOW MEDICAL GENRES* 野口ジュディーほか（三修社）
参考書 参考文献等	看護英和辞典（医学書院）　新英和中辞典　・リーダーズ英和辞典(研究社) ステッドマン医学大事典(メディカルビュー社)
備考	進度に応じてUnitの変更もある。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ｉ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００１	クラス番号	Ｒ　１		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年前期セメスター	単　　位	２単位　60 時間		
科目責任者	鵜生川 恵美子	そ　の　他	看護学部とは別内容		
担当教員	鵜生川 恵美子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	基礎的英語表現を言語使用目的に応じて総合的に学ぶ。 1. 英文読解:最新の科学に関する英文を読み、英文を的確に把握、解釈できるようにする。 2. 医療英語: 臨床現場で使用される基本的な英会話の習得。医療従事者として必要な知識を英語を通して学ぶ。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	Introduction Hospital Floors and Healthcare Professionals Self Introduction	講義 演習	予習として Unit の内容を読み、わからない単語・語句の確認、疑問点を確認しておくこと。	鵜生川
2	Unit1: Body Parts（人体各部） Unit1: 人型ロボットは新しいステージへ			
3	Unit2: Musculoskeletal System（筋骨格系） Unit4: コンピューター化された薬			
4	Unit3: Circulatory System （循環器系） Unit5: 日本の危機を救うのは水？			
5	Unit4: Respiratory System （呼吸器系） Unit6: 野菜ファクトリー			
6	Review			
7	Unit5: Digestive System（消化器系） Unit9: スーパー・コンピューターで手が届く無限			
8	Unit6: Brain,Nervous System and Sensory System（脳・神経・感覚系） Unit10: 携帯電話と脳腫瘍			
9	Unit7: Urinary System （泌尿器系） 中間テスト			
10	Unit8: Reproductive System （生殖器系） Unit11: 人類の「きぼう」を実験			
11	Review			
12	Unit9: Endocrine System （内分泌系） Unit15: 未来の脚			
13	Unit10: BLS and ALS （一次救命処置と二次救命処置） Unit16: 「ハートの中までお通し！」最新鋭ＣＴスキャナ			
14	Unit11: Rehabilitation（リハビリテーション） Unit19: ネコちゃん近寄らないで!			
15	Unit12: Diet and Nutrition（食事と栄養） Unit21: 感染にご用心			

評価方法	Attendance 10%　Quiz & Assignments 20%　Presentation 20%　Written Test 50%
教科書	1. *English for Healthcare Professionals Because We Care* Maki Inoue/ Tdashi Ihara (CENGAGE Learning) 2. *GETTING TO KNOW SCITECH GENRES* 深山晶子ほか（三修社）
参考書 参考文献等	新英和中辞典 ・リーダーズ英和辞典(研究社) ステッドマン医学大事典(メディカルビュー社)
備考	進度に応じて Unit の変更もある。

学部共通

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅱ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００２	クラス番号	Ｃ１・Ｃ２・Ｃ５・Ｃ６（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次後期（C1・C2）・２年次前期（C5・C6）	単位	１単位　30時間		
科目責任者	ﾌｫﾝ･ｱﾙﾃﾝｼｭﾀｯﾄ･ﾖﾊﾝ・ｱﾚｷｻﾝﾀﾞｰ	その他			
担当教員	ﾌｫﾝ･ｱﾙﾃﾝｼｭﾀｯﾄ･ﾖﾊﾝ・ｱﾚｷｻﾝﾀﾞｰ				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通した表現力を習得する。				
学科目的 学科目標	To become familiar with basic English expression and vocabulary used in health care and the nursing profession and to improve the four basic language skills:reading,writing,listening and speaking.				

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
	1	The hospital team	演習	毎回学習課題を提示	ﾌｫﾝ･ｱﾙﾃﾝｼｭﾀｯﾄ
	2	In and around the hospital			
	3	Hospital admission			
	4	Accident and emergencies			
	5	Pain			
	6	Symptom			
	7	Caring for the elderly			
	8	Nutrition and obesity			
	9	Blood			
	10	Death and dying			
	11	Hygiene			
	12	Mental health nursing			
	13	Monitoring the patient			
	14	Medication			
	15	Alternative treatments			

評価方法	Attendance　10%　Report&Quiz　40%　Written Test(Final Test)　50%
教科書	“NURSING 1”　Author:Tony Grice　Publisher:Oxford University Press
参考書 参考文献等	英和辞典、和英辞典（できれば医療用語を多く含むものが望ましい。なければ手持ちのもので良い。）電子辞書でも可。
備考	進度に応じて変更もある。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅱ(英会話)			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００２	クラス番号	Ｃ３　(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１，２年後期セメスター	単位	１単位　30時間		
科目責任者	正田　久実子	その他			
担当教員	正田　久実子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通した表現力を習得する。				
学科目的 学科目標	日常生活の英語表現の聴解力、会話力、討論の基礎技術の促進をはかる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	Introduction　・Self Introduction	演習	予習として、本文を読み、わからない単語や語句を確認して調べておく	
2	Unit 1: Making friends			
3	Unit 2: Interests			
4	Unit 3: Health			
5	Unit 4: Celebrations			
6	Unit 5: Growing up			
7	Unit 6: Around town			
8	Unit 7: Going away			
9	Unit 8: At home			
10	Unit 9: Things happen			
11	Unit 10: Communication			
12	Unit 11: Appearances			
13	Unit 12: Looking ahead			
14	Unit 12: Looking ahead			
15	Speaking test			

評価方法	Attendance&Participation 10%　Quiz&Assignments 20%　Oral Presentation 20% Written Test(Final Test) 50%
教科書	*Touchstone* 2 (Cambridge)
参考書 参考文献等	新英和中辞典 ・リーダーズ英和辞典(研究社)
備考	進度に応じてUnitの変更もある。

学部合同

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅱ(英会話)			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００２	クラス番号	Ｃ４　(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１，２年後期セメスター	単位	１単位　３０時間		
科目責任者	鵜生川　恵美子	その他	基礎レベル		
担当教員	鵜生川　恵美子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通した表現力を習得する。				
学科目的 学科目標	日常生活の英語表現の聴解力、会話力、討論の基礎技術の促進をはかる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	Introduction	演習	予習として、本文を読み、わからない単語や語句を確認して調べておく。	鵜生川
2	Unit1(Please call me Beth)			
3	Unit1(Please call me Beth)			
4	Unit2 How do you spend your day?			
5	Unit2 How do you spend your day?			
6	Unit5 Tell me about your family.			
7	Unit5 Tell me about your family			
8	Review			
9	Unit7 We had a great time!			
10	Unit7 We had a great time!			
11	Unit10 Have you ride a camel?			
12	Unit10 Have you ride a camel?			
13	Unit11 It’s a very exciting place.			
14	Unit11 It’s a very exciting place.			
15	Oral Presentation			

評価方法	Attendance&Participation 10%　Quiz&Assignments 20%　Oral Presentation 20% Written Test(Final Test) 50%
教科書	*Interchange* 1 (Cambridge University Press)
参考書 参考文献等	新英和中辞典 ・リーダーズ英和辞典(研究社)
備考	基礎的な英会話を学習したい学生を対象とする。 進度に応じてUnitの変更もある。

学部合同

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅲ(英語表現)			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００３	クラス番号	Ｃ１・Ｃ３　(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年　後期セメスター	単位	１単位３０時間		
科目責任者	石田　洋子	その他			
担当教員	石田　洋子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び、自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	Introduction	演習	予習として、Unit の内容を読んでおく。課題レポートをきちんと提出できるよう積極的に取り組む。	石田
2	Unit1 Getting Started			
3	Unit1 Getting Started			
4	Unit2 Getting to know each other			
5	Unit2 Getting to know each other			
6	Unit4 Writing about a personal experience			
7	Unit4 Writing about a personal experience			
8	Review			
9	Unit7 Writing a Narrative			
10	Unit7 Writing a Narrative			
11	Unit7 Writing a Narrative			
12	Unit6 Comparing & Contrasting			
13	Unit6 Comparing & Contrasting			
14	Unit6 Comparing & Contrasting			
15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Particication&Assignments 40%　Essay Writing(Final Test) 50%
教科書	*Write Away Right Away* David Martin (EFL Press)
参考書 参考文献等	英和中辞典　和英中辞典
備考	進度に応じて Unit の変更もある。

学部合同

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語Ⅲ(英語表現)			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００３	クラス番号	Ｃ２　(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	２年　後期セメスター	単位	１単位　３０時間		
科目責任者	鵜生川　恵美子	その他			
担当教員	鵜生川　恵美子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び､自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。				

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
	1	Introduction	演習	予習として、Unit の内容を読んでおく。課題レポートをきちんと提出できるよう積極的に取り組む。	鵜生川
	2	Unit1 Getting Started			
	3	Unit1 Getting Started			
	4	Unit2 Getting to know each other			
	5	Unit2 Getting to know each other			
	6	Unit4 Writing about a personal experience			
	7	Unit4 Writing about a personal experience			
	8	Review			
	9	Unit7 Writing a Narrative			
	10	Unit7 Writing a Narrative			
	11	Unit7 Writing a Narrative			
	12	Unit6 Comparing & Contrasting			
	13	Unit6 Comparing & Contrasting			
	14	Unit6 Comparing & Contrasting			
	15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Particication & Assignments 40%　Essay Writing(Final Test) 50%
教科書	*Write Away Right Away* David Martin (EFL Press)
参考書 参考文献等	英和中辞典　和英中辞典
備考	進度に応じて Unit の変更もある。

学部合同

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV（英語講読）			科目履修	否
科目番号	Ａ０３０１０	クラス番号	Ｃ１　（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1，２年　後期セメスター	単位	１単位　30 時間		
科目責任者	鵜生川　恵美子	その他			
担当教員	鵜生川　恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	Introduction	演習	予習として、単語や語句について調べ、確認をすること。また、グループワークでは、協力して作品を読み進めること。	鵜生川
2	My Sister’s keeper (1)			
3	My Sister’s keeper (1)			
4	My Sister’s keeper (1)			
5	My Sister’s keeper (2)			
6	My Sister’s keeper (2)			
7	My Sister’s keeper (2)			
8	Review			
9	My Sister’s keeper (3)			
10	My Sister’s keeper (3)			
11	My Sister’s keeper (3)			
12	My Sister’s keeper (4)			
13	My Sister’s keeper (4)			
14	My Sister’s keeper (4)			
15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Particication & Assignments 30%　Written Test(Final Test) 60%
教科書	取り扱う作品の原作の抜粋部分のプリントを配布。参考資料も必要に応じて配布。
参考書 参考文献等	英和中辞典　ステッドマン医学大辞典 『私の中のあなた』ジョディー・ピコー川福智子訳（早川書房 2006）
備考	DVD 、翻訳書などを補助としながら、医療をテーマとした文学作品を原文で読むので、積極的に関心を持って授業に臨むことが望ましい。 進度に応じて内容の変更もある。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV（英語講読）			科目履修	否
科目番号	Ａ０３０１０	クラス番号	Ｃ２　（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年　後期セメスター	単位	１単位　30 時間		
科目責任者	鵜生川　恵美子	その他			
担当教員	鵜生川　恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	Introduction	演習	予習として、単語や語句について調べ、確認をすること。	鵜生川
2	Unit1 家庭医学専門医の養成			
3	Unit2　メディカルツーリズム			
4	Unit3　CT・MRI の画像読影			
5	Unit5　オーダーメイド医療とは？			
6	Unit6　iPS 細胞研究所開所			
7	Unit7　大学院生による発達障害サポート			
8	Review			
9	Unit8　うつ病治療に過剰な薬剤使用			
10	Unit9　海外で臓器移植を受ける子どもたち			
11	Unit10　サプリメントにも副作用あり			
12	Unit11　たばこを減らしても肺がんは増加			
13	Unit13　手術とアロマ、絶妙の融合			
14	Unit14　母なる自然の癒し―森林の中のヒーリング			
15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Particication&Assignments(Quiz) 30%　Written Test(Final Test) 60%
教科書	実践的時事英語[医療版]・ザ・デイリー・ヨミウリを読む　川越栄子他(大学教育出版)
参考書 参考文献等	英和中辞典　ステッドマン医学大辞典
備考	進度に応じて Unit の変更もある。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV（英語講読）			科目履修	否
科目番号	Ａ０３０１０	クラス番号	Ｃ３　（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	２年　前期セメスター	単位	１単位　３０時間		
科目責任者	石田　洋子	その他			
担当教員	石田　洋子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
学科目的 学科目標	さまざまな種類の英文を読む機会を持ち、語彙や文法の知識の習得とともに、正確に読むリーディング力を強化する。また、英文理解にとどまらず、文化的背景、社会的問題にも関心を持ち英語を通して広い視野を持つようにする。				

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
	1	Introduction / Unit1　Chocolate Has a History as Rich as Its taste	演習	事前に本文を読み、単語や語句のチェックをする。2,3 ユニット終了後、Ｑｕｉｚ（ミニテスト）を行うので復習をすること。	石田
	2	Unit4 How to Get the Most Out of a Workout			
	3	Unit5 On World No Tabacco Day, Special Attention Goes to Women, Girls			
	4	Unit6 Study Adds to Understanding of Language and the Brain			
	5	Review			
	6	Unit7 Shortage of Nurses Is Worldwide, but Worst in Poorer Nations			
	7	Unit11 In Kenya, Low-Cost Crop Insurance for Small Farmers			
	8	Unit13 Taking Actions Against Child Labor			
	9	Unit14 Studying in the US: Writing College Papers			
	10	Review			
	11	Unit15 Greater Efforts Are Urged to Get and Keep Girls in School			
	12	Unit16 Scientists Look at Planet Products With an Eye to New Possibilities for Health			
	13	Unit19 The Argument Over Salt and Health			
	14	Unit20 Mapping the Way to a Better Soybean			
	15	Review			

評価方法	Attendance 10%　Quiz(Listening Test も含む)30%　Written Test(Final Test) 60%
教科書	*Brush Up Your English with Shadowing VOA Special English* (VOA スペシャルイングリッシュで読む現代社会) 倉本充子他　（三修社）
参考書 参考文献等	英和中辞典
備考	進度に応じて Unit の変更もある。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	中国語			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００４	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	２年次・（１年次）　後期セメスター	単位	２単位　60 時間		
科目責任者	林　秀行	その他			
担当教員	林　秀行				
授業の概要	中国語により表現された文学作品を鑑賞し、中国語の起源及びその発展の歴史を学習する。また、中国語による日常生活表現を学ぶとともに日本語と中国語との関係について理解する。				
学科目的 学科目標	中国語でのコミュニケーションに必要な中国語の基礎力を養成する。 発音の習得、あいさつなどの簡単な会話と基礎文法を理解し修得する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	中国語を学ぶ意義。中国概説。スキルとしての外国語の学び方。中国語ローマ字表記（ピンイン）を学ぶ。発音練習。	講義・演習	インターネットや市販のＣＤを利用して中国語を耳にすること	林
2	［発音①声調・基礎母音・子音１］実際に聴いて中国語の発音に触れる。中国語ローマ字表記（ピンイン）を学ぶ。発音練習。			
3	［発音②複合母音・子音２］間違えやすい発音（１~10000)、自分の名前を中国語で言う。年月日と曜日を学ぶ。発音練習。			
4	［基本文法１動詞述語文（S+V+O)］人称代名詞、指示代名詞、否定形、疑問文、連体修飾を学ぶ。発音練習。			
5	［基本文法２二重目的語文(S＋V＋O+O)］量詞（数量詞）と名詞を学ぶ。			
6	［基本文法３連動文(S＋V＋O＋V＋O)］「私は映画を観るのが好き」			
7	［基本文法４形容詞述語文］省略疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学ぶ。			
8	集中的な聞き取り練習及び発音練習。ピンイン習熟度テスト			
9	［基本文法５所在を表す「在」］位置に関する言葉を学ぶ。			
10	［基本文法６存在を表す「有」］数量に関する言葉を学ぶ。			
11	［基本文法７時制と時態］「動作の時点」と「動作の時間量、回数」を学ぶ。			
12	［基本文法８主述述語文（主語が２つある文)］「群馬は夏は暑い」			
13	［基本文法９助動詞］意思、可能性の表現、語気を表す助詞を学ぶ。			
14	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習			
15	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習。			

◎毎回、発音練習と会話練習を行います。恥ずかしがる気持ちは、コミュニケーションの妨げになります。無意味に恥ずかしがる傾向のある人は、自らの性行を理解し、語学を通して克服していきましょう。

評価方法	普段の授業での発言、出席、試験の結果から総合的に判断する。
教科書	看護・保健・医療スタッフの基礎中国語　劉 建著　メディカ出版
参考書 参考文献等	特になし
備考	定員６０人

科目区分	教養教育科目　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	フランス語			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００５	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・(２年次)　前期セメスター	単位	２単位　60時間		
科目責任者	田口宏明	その他			
担当教員	田口宏明				
授業の概要	フランス語の起源と国際的な普及の現状を理解し、他の言語との比較検討を通して、その特徴を学習する。また、フランス語により表現された文学作品を鑑賞し、フランス語圏の文化の特徴や言語圏の異なる人々の生活とわが国の文化の違いなどを理解する。				
学科目的 学科目標	目的：フランス語の使い方、またフランスおよびフランス語圏の文化・社会についての理解を深める。 目標：1. 綴り字の読み方と数詞を覚えること。 2. 冠詞・形容詞などの性数一致に慣れること 3. 基本的な動詞を覚えて自由に活用できるようになること。 4. 各時制の活用と用法を理解すること。 5. 他の言語と比較してフランス語の特徴と歴史を理解すること。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	フランス語の起源と普及情況など　冠詞　数詞	講義と演習	小テストに指示された範囲を復習し、次回の学習予定範囲を読んでおくこと。	田口
2	voilà, voici ; 動詞 être と avoir			
3	c'est と ce sont			
4	疑問文と否定文			
5	第１群規則動詞　所有形容詞			
6	不規則動詞　部分冠詞			
7	il y a ;　形容詞			
8	前置詞と冠詞の縮約　近接未来　近接過去			
9	疑問代名詞(I)　第２群規則動詞			
10	過去分詞　受動態			
11	直説法単純未来			
12	疑問形容詞　指示形容詞			
13	指示代名詞　直説法複合過去			
14	目的語の人称代名詞			
15	さまざまな時制および既習事項のまとめ			

評価方法	基本的には、毎回の小テスト(50%)と期末試験(50%)ですが、授業への参加状況を考慮に入れる場合があります。
教科書	指定なし。プリントを配布します。
参考書 参考文献等	三省堂　クラウン仏和辞典、　白水社　現代フランス語辞典、　大修館　ジュネス仏和辞典、 旺文社　プチ・ロワイヤル仏和辞典、　小学館　プログレッシブ仏和辞典
備考	NHKのラジオ講座の聴取、フランス語検定試験の受験をおすすめします。

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	ポルトガル語			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００６	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	２年次・（１年次）　後期セメスター	単位	2 単位　60 時間		
科目責任者	東海林ﾏﾘｵ賢	その他			
担当教員	東海林ﾏﾘｵ賢				
授業の概要	群馬県は、ブラジルとの交流が盛んな県である。かつて、群馬県からのブラジル移民は多く、平成８年には、その意向を受け、ブラジル政府から熱帯雨林を買い受け「アマゾン群馬の森」を作り、熱帯雨林の保護に乗り出した。また、ブラジルからの就業者も多く受け入れ、現在約１万６千人のブラジル人が生活している。ポルトガル語はブラジル国民の公用語であり、群馬県民にとって身近な外国語の一つである。また、ポルトガルは室町末期から江戸時代の日本文化に大きな影響を与えた国であり、ポルトガル語を由来とする外来語も多い。この授業においては、ポルトガル語の起源と発展の概要とともに、日本語文化への影響を学習する。また、ポルトガル語による日常生活表現を習得する過程を通して、ブラジルの歴史的背景を理解する。				
学科目的 学科目標	目的：ポルトガル語で医療の専門的用語の知識を深めると共に、ポルトガル語での簡単な会話を身につける。 目標：学生一人ひとりが将来、学習したポルトガル語を職業で生かしながら役立てることができる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	ポルトガル語の由来と文化について	演習 講義	毎回、学習課題を提示	東海林
2	文法(1)アルファベット・アクセント・発音			
3	数字と数え方／人間の体			
4	文法(2)名詞・動詞			
5	文法(3)医療用語			
6	会話(1)病院／事故			
7	文法(4)時間・曜日			
8	会話(2)症状の訴え方			
9	問診票の記入（産婦人科）			
10	会話(3)理美容院でのやりとり			
11	問診票の記入（泌尿器科・整形外科）			
12	問診票の記入（耳鼻咽喉科）			
13	ジェンダーに関する用語／歯医者と薬局			
14	総復習①			
15	総復習②			

評価方法	筆記試験 80%、出席状況 10%、授業への参加貢献状況 10%
教科書	指定しない
参考書 参考文献等	中萩エルザ：暮らしの医療用語辞典，２００２，(株)インターナショナルプレスジャパン
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	韓国語			科目履修	否
科目番号	Ａ０３０１１	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	2 単位　60 時間		
科目責任者	櫻井 正明	その他			
担当教員	櫻井 正明				
授業の概要	文字の成り立ちや発音を学習する。正しい発音を身に付けるために、発音変化の仕組みを学び発音練習を重ねていく。日常生活及び周辺の一般的な素材に関する易しい文字を理解し、基本構文を日本語と対照しながら学び徐々に韓国語に馴染んでいく。 DIALOGUE（対話）は映像で場面確認しながら練習し、雰囲気や話し言葉の特徴なども身につける。言葉を学ぶことは、その国の文化をも学ぶので韓国ドラマやK-P0Pからも韓国や韓国人の特徴、文化の共通点、相違点なども知り、学ぶ。（視聴覚教材なども用いる。）				
学科目的 学科目標	「目的・目標」ハングル(文字)への違和感をなくす。韓国や韓国人に興味を持ち、友達をつくる。韓国新聞、雑誌を読む。韓国映画を理解する。韓国文化と日本文化との共通点、相違点を言葉を通して学び、コミュニケーションをはかる。 修了時ハングル能力検定試験５級レベル。				

内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当
1	韓国語の語順、韓国語の文字、韓国語の発音のポイント、反切表、母音	講義と演習	教科書に沿って授業をするので添付されたＣＤを欠かさず聞くこと	櫻井
2	子音、激音、濃音、重母音			
3	基本単語、数字の表現、月日、曜日、時間、人・家族の呼び方、「こそあど」表現			
4	子音字の名称と辞典の配列順序、1「～です」			
5	2「～ですか」、3「～ではありません」、フォーマル表現、4「～(し)ます/です」			
6	5「～(し)ますか/ですか」、６前置形否定「～(し)ません/くない」、7 後置形否定「～(し)ない/くない」、フォーマル表現			
7	8「～(を)ください」、9「～(を)くださいますか」、10「～（は）いりません」、11「～してください」			
8	12「～(を)してくれますか」、13「～(を)お願いします」、フォーマル表現、14「～したい」			
9	15「～したいですか」、16「～したくない」、17「～してもいいですか」、18「～(して)みてもいいですか」			
10	19「～(が)あります/います」、20「～(は)ありますか/いますか」、21「～(は)ありません/いません」			
11	22「～することができます」、23「～することができますか」、24「～することができません」			
12	25「～できません」、26「どこ」、27「何」、28「いつ」			
13	29「だれ」、30「なぜ」、31「どの～」、32「どんな」			
14	33「どのように」、34「～しました」、35「～しましたか」			
15	36「～できませんでした」、37「～したことがあります」、38「～したことがない」			

評価方法	中間試験 40%、期末試験 60%を基本に、宿題・出席・授業中の態度等総合的に評価する
教科書	「韓国語会話　55 の鉄則表現」櫻井 正明　監修(三修社)　ISBN978-4-384-04296-2
参考書 参考文献等	特になし
備考	ハングル能力検定試験が毎年 6 月と 11 月に実施されるので受けることが望ましい

科目区分	教養教育科目	聴講	否
授業科目名	情報科学Ｉ	科目履修	否
科目番号	Ａ０３００７	クラス番号	Ｎ１・Ｎ２（看護学部）
授業形式	演習	必修選択区分	必修
開講時期	１年次　前期セメスター	単位	２単位　60 時間
科目責任者	堀謙太	その他	診療放射線学部とは別内容
担当教員	堀謙太		
授業の概要	社会の中で生活する人間は、多量のデータから必要な情報を取得し、意味解釈を加え、意思決定し、様々な情報を発信している。また、適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには、情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業に置いては､情報処理の基本を学習しながら､メディアリテラシーを主体とした情報技術(IT)の特徴を理解する。具体的にはパーソナルコンピュータの操作、ファイルの取り扱い、基本的なソフトウェアを活用した演習を行い、情報処理の原理・原則を理解し、その有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を学習する。		
学科目的 学科目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 様々な情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。		

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	情報科学とは	講義・演習	授業の進行に応じてレポート課題を提示するので必ず提出すること。 授業で扱う内容も含め、教科書に記載されている課題について自己学習すること。 授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。	堀
2	インターネットと World Wide Web			
3	電子メールとは？			
4	電子メールの書き方のマナー			
5	電子メールによるコミュニケーション			
6	電子メールとセキュリティ対策			
7	ワープロとは？			
8	ファイルシステム			
9	ワープロの基本的な使い方			
10	ワープロでのレポート作成 （１）レポートを書く準備			
11	（２）レポートの内容を考える			
12	（３）レポートのための情報収集			
13	（４）レポートの構成を考える			
14	（５）レポートの文章を書く			
15	（６）レポートを見直す			
16	（７）レポートを仕上げる			
17	（８）ドキュメントコミュニケーション			
18	著作権と情報モラル			
19	表計算ソフトの基本 （１）表計算ソフトを使う			
20	（２）表を編集する			
21	（３）関数を使う			
22	（４）グラフでデータを可視化する			
23	表計算ソフトによるデータ解析 （１）統計解析の考え方			
24	（２）集団を代表する数字			
25	（３）集団の関連性を調べる			
26	（４）標本抽出と点推定			
27	（５）分布モデルと区間推定			
28	表計算ソフトによるデータ解析の実際（１）			
29	表計算ソフトによるデータ解析の実際（２）			
30	情報の利活用と情報科学			

評価方法	レポート課題等の提出状況および内容に基づく総合評価（100%）
教科書	1.　考える伝える分かちあう情報活用力　noa 出版 2.　マンガでわかる統計学　高橋信・トレンドプロ　オーム社
参考書 参考文献等	iMac 入門・活用ガイド 2010　小泉森弥　毎日コミュニケーションズ
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅰ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００７	クラス番号	Ｒ１（診療放射線学部）		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	１年次　前期セメスター	単位	２単位　60 時間		
科目責任者	星野修平	その他	看護学部とは別内容		
担当教員	星野修平				

授業の概要

社会の中で生活する人間は、多量のデータから必要な情報を取得し、意味解釈を加え、意思決定し、様々な情報を発信している。また、適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには、情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業においては、情報処理の基本を学習しながら、メディアリテラシーを主体とした情報技術(IT)の特徴を理解する。具体的にはパーソナルコンピュータの操作、ファイルの取り扱い、基本的なソフトウェアを活用した演習を行い、情報処理の原理・原則を理解し、その有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を学習する。

学科目的 学科目標

目的：情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する
様々な情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。また、重要なのは機械ではなく、情報の活用という考え方であることを学習する。
目標：1.情報の概念について説明できる。
2.オペレーティング・システムの基本操作が行える。
3.ワードプロセッサ、スプレッドシートを用いて情報表現、情報操作が行える。

授業の内容と方法

回	授業内容		授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	まず始めに	[a:1-10][b:1-22]	講義	授業内容について、講義スケジュールに沿って、講義と演習を行うので、該当個所を教科書にて事前学習を行うこと。 演習授業終了後に、演習問題、レポート課題等を必ず提出すること。 事後学習として、講義及び演習内容を授業ノートにまとめること。 総合演習として、課題を提示するので提出すること。 定期試験では、学習内容の理解度を確認する。	星野
2	文字入力	[a:11-24]	演習		
3	ネットの利用	[a:25-38]	講義		
4	メールの利用		演習		
5	情報の調べ方・まとめ方	[a:117-122]	講義		
6	インターネットによる情報検索		演習		
7	スマートフォンによるコミュニケーション		講義		
8	クラウド・コンピューティング		講義		
9	SNS		講義		
10	お絵描きとファイル操作	[a:39-49]	講義		
～	ペイント、GIMP によるイラスト作成、図形描画		演習		
12	デジタルカメラによる画像取得		〃		
13	文書作成	[a:51-74]	講義		
～	ワードプロセッサによる文字入力・装飾	[b:23-51]	演習		
	〃　作表、罫線	[b:52-55]	〃		
16	〃　イラストや写真の取り扱い	[b:52-66]	〃		
17	表計算	[a:75-93]	講義		
～	スプレッドシートによる文書の作成	[b:94-111]	演習		
	〃　数値入力とグラフ	[b:112-135]	〃		
	〃　アンケート調査と集計	[b:136-154]	〃		
	〃　度数分布とヒストグラム	[b:155-164]	〃		
22	〃　検定	[b:165-185]	〃		
23	プレゼンテーション	[a:95-103]	講義		
24	Web による情報発信	[a:105-116]	講義		
25	コンピュータとネットワーク	[a:123-131]	講義		
26	情報とセキュリティ	[a:133-139]	講義		
27	情報と社会	[a:141-148]	講義		
28	プログラミング	[a:149-156]	講義		
29	総合演習１		演習		
30	総合演習２		演習		

評価方法	演習課題（授業毎の演習課題、総合演習１・２）60%、定期試験 40%
教科書	a)　基礎からわかる情報リテラシー　奥村晴彦　技術評論社 b)　医療系のための基礎情報科学　松木秀明・上野真由美　東京図書
参考書 参考文献等	c)　情報科学の基礎　改訂版　石田晴久監修　井内善内　他　実教出版 d)　最新情報リテラシー　第４版　久野靖監修　日経 BP 出版
備考	特になし

科目区分	教養教育科目			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅱ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００８	クラス番号	Ｃ１・Ｃ２（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次　後期セメスター	単位	２単位　60 時間		
科目責任者	堀謙太	その他			
担当教員	堀謙太				
授業の概要	パーソナルコンピュータの動画像処理、音声処理のマルチメディア機能を用いると、様々な情報コンテンツが作成できる。インターネット社会においては、マルチメディアを用いた情報コンテンツを個人で作成し、Web page（ホームページ）として、自由に発信することが可能となる。また、研究発表の際には、マルチメディアを活用したプレゼンテーション能力が必要となる。この授業においては、図形処理、動画処理などの技術を活用したホームページ・プレゼンテーションの制作演習を通して、現代社会における情報の適正利用に関わる倫理、情報表現能力を学習する。				
学科目的 学科目標	マルチメディアによる情報表現の手法を理解する 情報表現における情報の倫理を理解する				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	情報科学の観点から見た情報発信	講義・演習	授業の進行に応じて課題を提示するので必ず提出すること。 授業で扱う内容も含め、教科書に記載されている課題について自己学習すること。 授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。	堀
2	情報メディアと情報発信の考え方			
3	[Web ページ]World Wide Web と Web ページの仕組み			
4	[プレゼンテーション]プレゼンテーションの役割と手段			
5	[Web ページ]Web ページの公開			
6	[プレゼンテーション]発表の組み立てる			
7	[Web ページ]ハイパーリンク			
8	[プレゼンテーション]発表を設計する			
9	[Web ページ]インライン要素とブロック要素			
10	[プレゼンテーション]視覚表現としての箇条書き			
11	[Web ページ]Web ページの箇条書き			
12	[プレゼンテーション] プレゼンテーションソフトの作図機能			
13	[Web ページ]Web ページの表作成			
14	[プレゼンテーション] 図解による説明			
15	[Web ページ]Web ページの中の画像			
16	[プレゼンテーション]色を使った演出			
17	[Web ページ]CSS によるデザイン設定の基礎			
18	[プレゼンテーション]スライドデザイン			
19	[Web ページ]CSS による様々なデザイン設定			
20	[プレゼンテーション]アニメーションによる演出			
21	[Web ページ]CSS の活用と Web ページデザイン			
22	[プレゼンテーション]発表前の仕上げ			
23	[Web ページ]Web ページと著作権			
24	[プレゼンテーション]発表の進め方			
25	Web ページ、プレゼンテーションによる情報発信			
26	プレゼンテーション演習（1）		最終課題	
27	プレゼンテーション演習（2）			
28	プレゼンテーション演習（3）			
29	プレゼンテーション演習（4）			
30	Web ページ作成演習			

評価方法	演習課題の実施状況及び内容，レポート等の提出状況及び内容（100%）
教科書	指定なし
参考書 参考文献等	考える伝える分かちあう情報活用力　noa 出版
備考	特になし

科目区分	教養教育科目			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅲ			科目履修	否
科目番号	Ａ０３００９	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	２年次・（１年次）　後期セメスター	単位	２単位　60 時間		
科目責任者	堀謙太	その他			
担当教員	堀謙太				
授業の概要	コンピュータが情報を処理する場合、その処理過程を記述した計算手順（アルゴリズム）が必要となる。この授業においては、基本的なアルゴリズムであるソート法、探索法等を学習する。また、これを基盤として画像処理アルゴリズムの原理について学習する。さらにＣ言語、java 言語などによる画像処理アルゴリズムのプログラミングの体験を通して、情報処理におけるプログラミングの実際と機能を学習する。				
学科目的 学科目標	プログラミング実習を通して情報処理のメカニズムを理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1 2	コンピュータとプログラミング	講義・演習	授業の進行に応じて課題を提示するので必ず提出すること。 授業で扱う内容も含め、教科書に記載されている課題について自己学習すること。 授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。	堀
3 4	プログラムの作成と実行			
5 6	コンピュータにおける情報表現			
7 8	コンピュータにおける数値計算			
9 10	プログラムの流れを制御する（１）条件分岐			
11 12	プログラムの流れを制御する（２）繰り返し処理			
13 14	たくさんのデータをまとめて扱う（配列）			
15 16	プログラムを分割する（関数）			
17 18	関数の色々な使い方			
19 20	他のプログラムを呼び出す			
21 22	“モノ”指向のプログラミング （オブジェクト指向プログラミング）			
23 24	クラスを使ったプログラミング			
25 26	データの入力			
27 28	データの出力			
29 30	データを処理するプログラム			

評価方法	演習課題の実施状況および内容，レポート等の提出状況および内容（100%）
教科書	特に指定しない
参考書 参考文献等	はじめての Java プログラミング　佐藤滋　秀和システム
備考	特になし

学部合同

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	否
授業科目名	生活と科学Ⅰ（人文・社会科学と生活：哲学）			科目履修	否
科目番号	Ａ０４００１	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次（２年次）　後期セメスター	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	森川　功	その他			
担当教員	森川　功				
授業の概要	科学、すなわち自然科学と捉えることが多いが、科学を広義に捉えた場合、人文科学、社会科学が含まれる。この授業においては、科学を広義に捉え、諸科学の基礎となる哲学を主題として、その成り立ちと展開を学習する。また、哲学の諸科学への影響と日常生活と哲学との関連を学習する。さらに「思考する」という人間生活に必須の活動と哲学の関係についても理解する。				
学科目的 学科目標	哲学の歴史に関して教養を得るとともに、人が自律的な存在であることをきちんと認識し、自分自身で物事に疑問を持ち、深く考えるという習慣を身につける。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	哲学の論題１：神と自然	講義	毎回、学習課題を提示	森川
2	哲学の論題２：自由			
3	哲学の論題３：生と死			
4	古代哲学１：自然哲学			
5	古代哲学２：ギリシャ哲学、ソクラテス			
6	古代哲学３：プラトン、アリストテレス、他			
7	中世哲学１：神中心の哲学、アウグスティヌス			
8	中世哲学２：トマス・アクイナス、他			
9	近代哲学１：ルネッサンス、宗教改革			
10	近代哲学２：ベーコン、デカルト、スピノザ、他			
11	近代哲学３：ロック、ヒューム、ルソー、他			
12	近代哲学４：カント、ヘーゲル、ベンサム、他			
13	近代哲学５：ミル、キルケゴール、ニーチェ、他			
14	現代哲学１：フロイト、ヤスパース、他			
15	現代哲学２：サルトル、他（総括）			

評価方法	レポート＋講義における質疑応答(100%)
教科書	指定なし
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜提示をする。
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅱ（人文・社会科学と生活：文学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００２	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　後期セメスター	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	岡田芳保	その他			
担当教員	岡田芳保				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、人文・社会科学を科学として位置づけた上で、人文科学の中でも、言語表現による芸術作品を研究する学問である文学を対象にその方法と特徴を学習する。また、人間の生活に対する文学的接近方法を学習し、芸術作品と生活との関連を文学的視点から理解し、文学の研究成果の日常生活への活用方法を学習する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	近・現代の言語表現による文学作品を読み、鑑賞する。 小説、エッセイ、詩、等に描かれた生活、感情、心理、社会、風土、時代を現代を生きる実学として文学（作品）を学習する。 豊かな人間性のある大学生として教養を身につける。				

授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
	1	〈遠野物語〉〈忘れ去られた日本人〉を読む　①	講義	毎回の授業で適宜指示する	岡田
	2	〃　②			
	3	〃　③			
	4	〃　④			
	5	〃　⑤			
	6	群馬の詩人を中心に　①			
	7	〃　②			
	8	〃　③			
	9	〃　④			
	10	〃　⑤			
	11	群馬を舞台にした小説　①			
	12	〃　②			
	13	〃　③			
	14	〃　④			
	15	〃　⑤			

評価方法	感想文（レポート）、読解力（試験）により総合的に評価する。
教科書	毎回講義用テキストを用意する。
参考書 参考文献等	「遠野物語」（柳田國男）、「忘れられた日本人」（宮本常一）、「郷土望郷詩」（萩原朔太郎）、「現代詩鑑賞」（伊藤信吉）、「群馬を舞台にした小説」（みやま文庫）
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅲ（人文・社会科学と生活：政治学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００３	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	井上彰	その他			
担当教員	井上彰				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、人文･社会科学を科学として位置づけた上で、社会科学の中でも人類最古の科学の一つとされる政治学を対象に、その時代的変遷、方法と特徴、人間の生活と政治学との関係などを学習する。また、これらの学習を通して人間社会の秩序と政治の関係について理解する。				
学科目的 学科目標	目的：政治をめぐっては、マスメディアを中心に活発な議論がなされているものの、そうした議論がどこかうさん臭く思われるのも事実である。その最たる原因は、あやふやな知識や断片的な情報をもとに、政治が頻繁に語られているということに尽きる。本講義では、政治学を体系的に学ぶことにより、政治の本質に迫ってゆきたい。 目標：１、メディアに惑わされることのない政治の見方を確立する。 ２、現代日本の政治が抱えている根本課題を冷静に考える。 ３、社会科学としての政治学の意義を認識する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	議会の比較―イギリスとアメリカ	講義	章末の参考文献リストを参照	井上
2	日本の議院内閣制			
3	政治主導に向けて(1)―９０年代以降の改革			
4	政治主導に向けて(2)―民主党政権による改革			
5	日本の官僚制(1)―人事を中心に			
6	日本の官僚制(2)―官僚制の逆機能			
7	地方自治			
8	地方分権			
9	デモクラシー			
10	投票行動			
11	メディアと政治			
12	選挙制度			
13	政党			
14	利益団体と政治			
15	対外政策			

評価方法	期末試験（100%）。ただし、ときおり授業中に書いてもらう小レポートの点数を加味して評価する。なお優れたレポートについては授業で紹介し、レポートの書き方についてその都度学べるようにする。
教科書	久米郁男ほか『政治学　補訂版』有斐閣、２０１１年
参考書 参考文献等	講義中に適宜指示するが、以下の文献をとりあえずあげておく。 飯尾潤『日本の統治構造』中公新書、２００７年 大山礼子『日本の国会』岩波新書、２０１１年
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ⅳ（自然科学と生活：生物学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００４	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	神宮司洋一	その他			
担当教員	神宮司洋一				
授業の概要	この授業においては科学を広義に捉え、自然科学を科学の一領域として位置づけた上で自然科学の一つである生物学の成立と展開、生物学の成果と現代の生活との関係を学習する。また、生物学の研究手法に触れるとともにその方法の特徴と限界、学問としての生物学の発展性と生物学の研究成果を生活に活用するための課題について学習する。				
学科目的 学科目標	目的：人間も含む自然界における現象を理解するための基本的な思考力を養うこと。 目標：動物の体作りを中心課題として生物学的に理解すること。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	生物種とは。分類と系統の考え方	講義	毎回、資料を配付します。	神宮司
2	系統と進化の考え方			
3	コープの法則など。動物の世界のとらえ方			
4	自然史。地球の歴史と生物１			
5	自然史。地球の歴史と生物２			
6	標本・模型の観察			
7	進化と遺伝子のかかわり　特に遺伝子の重複			
8	ホメオボックスと動物の体制			
9	脊椎動物の付属肢発生過程と遺伝子			
10	動物の再生現象			
11	付属肢の再生と極性			
12	再生現象にみられる極性の解説例			
13	動物の寿命と細胞の寿命			
14	生物の絶滅現象			
15	標本・模型の観察			

評価方法	最後に行う論述式の試験結果と、随時、授業時間内に課すレポート、出席状況によって評価します。 ※15 回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定します。
教科書	指定しません。
参考書 参考文献等	岩波書店「進化学」「生物科学入門コース」両シリーズ、岩波書店　倉谷滋著「かたちの進化の設計図」、培風館　養老孟司著「形を読む」
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学Ｖ（自然科学と生活：化学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００５	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　後期セメスター	単位	２単位　30時間		
科目責任者	石川良樹	その他			
担当教員	石川良樹				
授業の概要	化学の成立と展開を学習し、化学的研究成果と現代の生活との関係を学習する。また、化学の研究手法に触れ、その方法の特徴と限界、学問としての化学の発展性、化学の研究成果を生活に活用する上での課題、について理解する。				
学科目的 学科目標	目的：生活に身近な現象について化学的に解説、考察し、医療従事者として必要な化学の基礎を理解する。 目標：i)物理化学では化学結合を主体とする構造論と熱力学、酸化・還元と酸・塩基反応　ii)無機化学では周期表と周期律、並びにそれを基にした元素各論　iii)有機化学では有機化合物の構造・性質、及び有機化学反応　iv)高分子化学では高分子の構造・種類・性状　v)生命化学では生体を構成する物質（特にDNA、RNA、タンパク質など）を扱い、これらの基本的な事柄を理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	序論：化学の成り立ち	講義	毎回出す設問を必ず復習すること。	石川
2	原子と分子			
3	元素の性質と反応			
4	酸と塩基			
5	酸化と還元			
6	化学反応とエネルギー			
7	化学反応と速度論			
8	有機化合物の性質と反応（その１）			
9	有機化合物の性質と反応（その２）			
10	有機化合物の性質と反応（その３）			
11	有機化合物の性質と反応（その４）			
12	有機化合物の性質と反応（その５）			
13	生命と化学反応（その１）			
14	生命と化学反応（その２）			
15	高分子化合物の構造と性質			

評価方法	期末試験の成績を主とするが、レポート、出席状況も参考とする。
教科書	系統看護講座　基礎分野　化学　第６版 著者：杉田良樹　　医学書院
参考書 参考文献等	特に定めない。
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学Ⅰ（自然科学の基盤：数学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００６	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	瀬山士郎	その他			
担当教員	瀬山士郎				
授業の概要	人間は、自然現象を解明するための手段として自然科学を発展させてきた。また、自然科学的思考の基盤である数学は、自然科学研究を行う上で必要不可欠な学問である。この授業においては、数学の形成の過程とその歴史的・文化的背景、現代の自然科学文明の基礎となる数学的思考の特徴を学習する。				
学科目的 学科目標	具体的な２変数関数についてその極大、極小などの概念を理解し、具体的な極値の数値を求めることができるようになること。および、具体的な２変数関数の重積分について、その概念を理解し具体的な体積計算などができるようになること。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	初等関数と逆三角関数　1	講義と演習	数学Ⅲを履修していることが望ましいが、必要な箇所は補足説明する。	瀬山
2	初等関数と逆三角関数　2			
3	微分の概念と性質			
4	初等関数のテーラー展開　1			
5	初等関数のテーラー展開　2			
6	２変数関数の概念			
7	２変数２次関数とその分類			
8	２変数関数の極値問題　1　テーラー展開			
9	２変数関数の極値問題　2			
10	２変数関数の極値問題　3			
11	積分の概念と性質			
12	２変数関数の積分　1　重積分			
13	２変数関数の積分　2　重積分と繰り返し積分			
14	重積分の計算			
15	重積分の応用　体積その他			

評価方法	講義中の質疑応答、小テストの採点、レポート採点（返却）及び、期末テストの成績を総合的に評価する。点数は学則に準ずる。
教科書	基礎の数学　瀬山士郎　朝倉書店
参考書 参考文献等	大学初年級の微分積分学の教科書ならいずれも参考書になります。たとえば「概念を大切にする微積分」（日本評論社）など。なお数学Ⅲを履修した人はその教科書が参考書として役に立ちます。持参して下さい。
備考	数学は基礎の学問として役立ちます。数学Ⅲに続く数学Ⅳとしての微分積分学を学んで下さい。高校で学んだ微分積分学がどのように多変数関数に拡張されていくのかを概念、技術両面から学びます。

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学Ⅱ（自然現象の基盤：物理学）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００７	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次　後期セメスター	単位	2 単位　30 時間		
科目責任者	大野由美子	その他			
担当教員	大野由美子				
授業の概要	物理学とは、自然現象を支配する法則を発見し、その帰結を研究して体系化することにより、自然現象の理解に寄与するとともに応用への道を開く学問分野である。この授業においては、この世に存在する自然現象の派生と帰結が物理学的視点からどのように解明されてきたかを学習し、物理学の特徴とその人間社会との関連を理解する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	看護学部・診療放射線学部問わず、医療人に最低限必要な物理学の理解と、その物理学がどのように成り立っていて、その特徴はどんなところにあるかを学習し、現在の科学技術や医療にどのように役立っているのかを理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	医療（診断、治療）に関わる物理	講義	各回ごとに指定	大野
2	医療（診断、治療）に関わる物理、放射線の利用			
3	放射線の利用 2			
4	暮らしの中の物理学			
5	力学 1（運動に関する物理量―運動を表現するいろいろな量概念）			
6	力学 2（力学量の因果関係―運動を表現する基本的な関係）			
7	力学 3（運動方程式）			
8	力学 4（力積、運動量）			
9	力学 5（力学的エネルギー）			
10	力学 6（円運動）			
11	電磁気学 1（電気に関係する基本量―静電気に関わる基本概念）			
12	電磁気学 2（電流の基本法則―電流（直流）発生の仕組みと静電気の基本量との関係）			
13	電磁気学 3（電場、磁場）			
14	電磁気学 4（電場、磁場）			
15	現代物理学の基礎（相対論、量子論）、総括			

評価方法	期末試験および出席確認を兼ねる小テストによる。 ※15 回の講義等（前半 7 回･後半 7 回の講義等）の後に実施する試験日時は別途指定する。
教科書	プリントを配布
参考書 参考文献等	高校時に使用した教科書など
備考	高校で物理未履修の場合、3 年間で学んだものを簡単に半期で習得出来るはずはないので、高校 3 年間の補完目的に受講する者は相当な努力を行って欲しい。トピック的なものを求めて受講する者も、大学の物理学の初歩や今日の科学技術の元を理解できるよう、ある程度の自己学習は行うこと。毎回の小テストは必ず答え合わせを行っている。毎回の講義の復習のほか、役に立つ・知っていると嬉しい項目などに設定しているので出席確認提出が終わってどうでもいい、という態度ではない方が望ましい。

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	環境科学			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００８	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期セメスター	単　　位	2 単位　30 時間		
科目責任者	石川良樹	そ　の　他			
担当教員	石川良樹				
授業の概要	環境科学は、自然環境やその破壊を人間や生物との関わりにおいて捉える学問である。この授業においては、環境科学の対象となる自然環境に関わる諸問題、環境科学の起源と特徴を学習する。また、環境ホルモン問題など地球上の様々な環境問題の構造とこれを解決するための取り組みを理解し、人間の生活や健康と環境との関係を学ぶ。これらの学習を通して未来を志向し、人間の生活を取り巻く諸問題を解決する態度を理解する。				
学科目的 学科目標	人間の生活や健康と環境との関係を理解し、環境問題に自ら取り組む態度を身に付ける。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習 (学習課題)	担当
1	環境科学イントロダクション	講義	毎回学習課題を提示	石川
2	宇宙　地球　生命			
3	生物進化と分子進化			
4	生物の歴史　絶滅と進化			
5	人類の歴史と文明			
6	産業と公害			
7	化学物質の光と影			
8	水と環境			
9	花粉症の環境要因			
10	新興感染症			
11	再興感染症			
12	食の安全			
13	人口論			
14	生命科学の発展と医療			
15	まとめ			

評価方法	レポート
教　科　書	指定なし
参　考　書 参考文献等	地球白書　ワールドウォッチ研究所　2009-10　クリストファー・フレイヴィン/編著 エコ・フォーラム 21 世紀/日本語版監修　　家の光協会 環境学入門　全 12 巻　植田和弘、住　明正、武内和彦編集　岩波書店
備　　考	特になし

学部共通

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	可
授業科目名	スポーツ科学Ｉ（スポーツ理論）			科目履修	可
科目番号	Ａ０４００９	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）前期セメスター	単位	１単位　15 時間		
科目責任者	鈴木昭彦	その他			
担当教員	鈴木昭彦				
授業の概要	スポーツ科学とは、スポーツすなわち身体運動を科学的に解明し、スポーツとは何かを追求する学問である。この授業においては、様々なスポーツ理論の実生活への応用、運動のメカニズム、運動が身体に及ぼす影響をスポーツ科学の研究成果に基づき理解する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	目的：スポーツに関連する基本動作と心理を分析的に理解することを通して、現象を科学的に解明していくことの意義を見いだす。 目標：１．解剖学的・生理学的知識に基づき、身体運動の基本動作を理解する。 ２．人間の心理がスポーツに及ぼす影響を理解する。 ３．身体運動を科学的に理解することの意義を明確にする。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	スポーツの定義と身体活動の要素と影響	講義 演習	グループによる投球動作に関する文献の検討	鈴木
2	身体のメカニズム（呼吸と循環）			
3	身体のメカニズム（筋と骨格）			
4	身体のメカニズム（筋収縮エネルギーと酸素）			
5	身体のメカニズム（感覚と運動）			
6	体力の概念・体力の構成要素			
7	運動の意味を考える			

評価方法	授業への参加状況、レポートにより総合的に判断する。
教科書	特になし
参考書 参考文献等	特になし
備考	特になし

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	否
授業科目名	スポーツ科学Ⅱ（体力づくり）			科目履修	否
科目番号	Ａ０４０１０	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	実技	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　前期・後期	単位	1 単位　30 時間		
科目責任者	近藤照彦	その他			
担当教員	近藤照彦				
授業の概要	この授業においては､身体発達や健康維持･増進の基礎となる体力について学習する｡様々なトレーニングを体験し、体力、特に行動体力の中でも、最も必要とされる全身持久力・筋力・柔軟性に関しその保持・増進の方法について学習する。				
学科目的 学科目標	健康のための運動の実践と体力の向上を到達目標とする｡集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。実技は、選択スポーツとする。健康指標として個人の健康カードに脈拍数、健康状態、選択スポーツ種目、健康度チェックを記入する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習(学習課題)	担当
1	講義概要の解説と履修選択調整	･教室 ･体育館 ･屋外		近藤
2	実技			
3	実技			
4	実技			
5	実技			
6	実技			
7	実技			
8	実技			
9	実技			
10	実技			
11	実技			
12	実技			
13	実技			
14	実技			
15	実技			

評価方法	出席（70%）、健康カードへの記載状況(10%)、態度・実技能力（20%）での総合評価、スポーツのできる服装（トレーニングウエアー、屋内用シューズ、屋外用シューズ）で出席私服は認めない。
教科書	なし
参考書 参考文献等	なし
備考	・１クラス 40 名程度、履修希望者数が定員を越える場合には状況により抽選します。 ・看護学部 1 年生前半 40 名のうち 1 年次に当科目の履修を希望する場合には、前期に履修登録してください。

科目区分	教養教育科目　　環境と科学			聴講	否
授業科目名	スポーツ科学Ⅲ（身体表現）			科目履修	否
科目番号	Ａ０４０１１	クラス番号	Ｃ１（学部合同）		
授業形式	実技	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・（２年次）　後期セメスター	単位	1 単位　30 時間		
科目責任者	松本富子	その他			
担当教員	松本富子				
授業の概要	この授業においては、世界的に普及し、様々な人々に楽しまれている室内スポーツであるボールルームダンス（社交ダンス）を通して、身体表現方法及びコミュニケーション技術を学ぶ。また、国際社会に適用する教養としてのボールルームダンスの歴史、意義などを理解する。				
学科目的 学科目標	ダンスによる身体表現によって、自己のからだを解放しノンバーバルなコミュニケーションを実現することの楽しさを体験するとともに、その意義と方法を学ぶ。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	講義概要の解説	実習と一部講義		松本
2	講義　身体の文化の多様性と深まり			
3	実技　リラクゼーション　心とからだのコミュニケーション			
4	実技　〃			
5	実技　リズムにのって共に踊る（１）			
6	実技　リズムにのって共に踊る（２）			
7	講義　心身のコミュニケーションとダンス			
8	実技　〃			
9	実技　〃			
10	実技　日本のリズムと表現			
11	実技　〃			
12	実技　〃			
13	実技　〃			
14	講義			
15	発表・まとめ			

評価方法	出席条件および以下の課題を満たした者について、評価を行う。 ①毎時間の振り返り ②実技による発表 ③まとめのレポート
教科書	適宜紹介する
参考書 参考文献等	適宜紹介する
備考	特になし